

# 磐城民政新聞

日ノ五(回三月毎)日行發  
通政古金 辨編行發  
人刷印裝  
増番五十四町田町平區自國  
社開新民政城磐 所行發  
錢十三月ヶ一錢拾價定紙本  
増錢十定標錢十五行一料告廣

良品廉賣 確實效捷  
福島縣平町 金屋  
電長九番

## 小學兒童の收容難と 第三小學校建築の急務

### 町財政に餘裕なしとの常套語により 一顧も與へざる無能當局と群盲町議

## 兒童教育上の重大問題

小學校増築問題は、兒童教育第一、第二兩校を合併すれば約廿五學級の不足を告げ増築問題は、人口増殖に於て、町財政問題として、當局は勿論のこと、いやしくも平町民として何人も深重に考究すべきものである。現校舍は約十年前(明治四十四年二月十七日)舊校舍焼失により改築されしもので、當時の收容兒童、貳千貳百名に比し約千七百名以上の増加を示す現在に於て、校舍の増築は以然の現象である。

小學校令に依れば、一小學校の學級數は、貳拾四學級を以つて基本原則となすに現在平小學校の學級數は、第一、第二兩校とも、三十學級以上にして、兩校とも數年以前より、小學校として尤も必要な、理科、手工唱歌、裁縫等の特別教室まで收容すも不足す猶不完備な舊校舍(燒残り部分)まで使用なし居る有様で、町として上水道の増設より緊要な急眉の問題で、過去十八年間に於ける收容兒童の増加は平均毎年百〇四名にして男女別七年より現在に至る年別收容兒童數を示せば

→(す示を數の童兒容收別年)←

年	男	女
明治廿七年	一、四八八	一、四〇〇
全廿八年	一、五〇〇	一、四〇〇
全廿九年	一、五三二	一、四〇〇
全四十年	一、七五一	一、四〇〇
全四十二年	一、九四九	一、四〇〇
全四十四年	二、〇〇〇	一、四〇〇
全四十五年	二、〇〇〇	一、四〇〇
明治四十四年	二、〇〇〇	一、四〇〇
全四十五年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正二年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正三年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正四年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正五年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正六年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正七年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正八年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正九年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正十年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正十一年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正十二年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正十三年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正十四年	二、〇〇〇	一、四〇〇
大正十五年	二、〇〇〇	一、四〇〇
昭和二年	二、〇〇〇	一、四〇〇

町として上水道の増設より緊要な急眉の問題で、過去十八年間に於ける收容兒童の増加は平均毎年百〇四名にして男女別七年より現在に至る年別收容兒童數を示せば

斯くの如く、今や小學校増築は、不可避の問題である多數町議は、町財政に餘裕とすれば、吾々は其の工法なしとの理由でこの重大問題を閉却なし何等の關係を有する、位置につい、研究をなさず一時のびて、考究すべきである、或ば教育上の、誠に寒心する一部識者間に於て、これ兒童教育上、誠に寒心するが對策として、現在校舍(北き事である。や、ともすれば方の校舍)に二階を設置すべしとなす意見を聴くが「町財政に餘裕なし」との常言は、一時的の緩和策に過ぎず、全園イックの町村より八學級を増加することに、學校建築費の如き巨額を得るとしても、現在不を腹を痛めずして、簡位に足學級の三分の一を補ぎな支辨し得る處ありや要は、うに過ぎず、いわんや毎年ナス意志の薄弱に歸因する級數的增加を示めず就學兒童に對して、何等の効果なきは明らかなる事である、現在小學校敷地に増築の餘地なく、二階設置に於て効果なしとせば、收容兒童の緩和策として採るべきは、新校舍(第三小學校)建設の一途あるのみである。然してコノ校舍建設に對して吾々の最も注意を拂ふべきは、敷地の選定である。これは單に、工費に(地價に依る)至大の影響あるのみでなく、兒童通學に密接の關係を有するは論ずるべきに非らず、仄聞すれば、千坪(新校舍は小學校令になすとの意志なれば、速や依り、二十四學級を收容すかにこれを實行なし、現商るとして)を要するとせば業補習學校敷地(時價十萬現在平町所有の舊磐城中學園)を始め、其の他不必要校敷地は、狹隘に失して利な箇所を競賣なし、殘余は用なすことを得ず、然すれ町債に依り、コノ急眉な小は、地價の比格的低廉な、學兒童收容難の根本的解決しかも平町の中心地たる郡たる第三小學校建設に一路役所附近が尤も適切なる箇直進すべきである。

### 社員募集

身体強壯にして少くとも斯業に趣味を有し年齢卅歳未滿中等學校卒業程度の學歴を有する者を求む(希望者來社)

昭和二年四月

### 磐城民政新聞社

當局、及び町議の稱するが如く、町財政に餘裕なしと雖も、他に方法手段の無きもなき事である。校舍敷當局は現在の平商業補習學地として最少限度に於て七校を、舊磐城中學校に移轉千坪(新校舍は小學校令になすとの意志なれば、速や依り、二十四學級を收容すかにこれを實行なし、現商るとして)を要するとせば業補習學校敷地(時價十萬現在平町所有の舊磐城中學園)を始め、其の他不必要校敷地は、狹隘に失して利な箇所を競賣なし、殘余は用なすことを得ず、然すれ町債に依り、コノ急眉な小は、地價の比格的低廉な、學兒童收容難の根本的解決しかも平町の中心地たる郡たる第三小學校建設に一路役所附近が尤も適切なる箇直進すべきである。

## 祝改題再刊

- 磐城セメント株式會社
- 磐城建物株式會社
- 磐城海岸軌道株式會社
- 磐城水産工業株式會社
- 東部電力株式會社
- 平出張所
- 植田水力電氣株式會社
- 磐城銀行
- 磐越銀行
- 平銀行
- 磐城實業銀行
- 四倉銀行
- 四倉電氣株式會社
- 入山探炭株式會社
- 小田炭礦株式會社
- 山崎合名會社
- 平藝妓屋組合



# 首 實 驗

## (其一) 狂 犬

### 下馬評そのよ

光輝ある普選第一回縣議戦に立候補する人として下馬評人物を挙げれば、郡南に現縣議大平陸四郎、鷲清吉あり、政友系に現縣議古川、赤津、中立として赤坂、北部山の手の堅壘を根據に、若松美三東部に鈴木辰三郎、現縣議、木村清治、木村固辭せばお鉢は山崎吉平、海濱地方に現縣議、小野晋平あり、中部に井上茂作、野崎滿藏、草野順平、いづれも野心を藏す又政、憲兩派の間隙に乗せんとする惑星、加藤丈夫があるカゾへ来らば十指を屈してあまりある、いづれにせよ、代議士改選期を目前にひかへ、縣會の分野兩數接近せる際、兩派の抗争、激甚なるを想せしむ、數倍に達する新有権者と、廣汎なる區域に、何人が榮冠をカチ得るかは、相場の變動の豫測以上の難事である。當落の豫斷の前に一通り候補者の首實驗はまづ當然

### 小野晋平 (政)

小野晋平は黨人の通有癖とも云ふべき小策を弄さず男性的な男だ、智略は別として赤誠、地方を愛ふるの點に於て他に其の比を見ない、彼が地方啓發に私財を投じ乍ら盡力せしことは地方民の等しく認むる處である。熱情何物をも容解せずんば止まざる氣概と部下をよく庇護し、人に接し寛大なる點は、小粒の多い當世に於て稀に見受ける男だ不況期に暴舉であると非難され、一時は其の設立さむ疑問視された、警城水産工業會社も、彼なればこそ、達成されたのである、灼くが如き熱情と不屈の氣質は一面にかつて彼をして財的不利に導くことが多いようだ、地方に對する献身的努力は朝野の區別がない彼が前回の初舞臺に、壓倒的多數を以て當選せし事は一面に鈴木辰三郎の讓歩に依る處もあろうが、地方人士が如何に彼をマツに大なるかを立證するものだ、彼れが單なる、富豪の子でなく、經綸あり抱負あり、手腕あり、

而かも、情熱の男であることは過去四四年間に於ける公的生活に表明されて居るから再起するにせよ當選は疑のなき處である。

### 鈴木辰三郎 (政)

智略縱横、包容力の大きな點に於て、本郡縣議級中の第一人者である、よく人の世話、子分の面倒を見る點は小野晋平と好一對だ、彼は或る意味に於て、白井博之なきあとの石城政友派の子守役だ舊政友系の或る人々には邪魔者だろが、新政友派にとりては、ナクテナラス人傑である。彼は非常に聰明であり、調和性の圓滿に發達した男である。先輩白井博之の信任厚きも、特定人をのぞく一般の人々に懐まれるのも、動もすれば欠點につけこまんとする政敵の中にも多くの知人を有してゐるのも、皆これが爲めである。彼は一面惟幕の人であり、同時に表面の人だ。下馬評人物中黨人として、最も撰練されてゐるのは彼だ、前回の縣議戦には、面壁の地を、黨友小野晋平に譲り、未踏の地、第四區に立候補なし善戦おしくも敗れ、爾來野にありても、克く選舉民の意を體し、地方の爲め奔走し、有事に於ける準備と用意を平素より心掛けて居たし、彼に對し期待する者も相當あれば彼の當選は難事ではない。

### 若松美三 (憲)

黨人として烈日秋霜の威に乏しとの評もあるが、十年一日の如く石城憲派の爲めに盡した巧積は何人と雖も認めぬわけにはいかぬ。従つて彼れは憲派尤一の黨勢通である智略もある。言論に於ても黨派人無き故もあるが兎も角上の部である。多々年村政の鍵を握つた關係上、政治にも理解が深い然かも、妥協性にも富み肌ざりが滑らかだから野崎滿藏の如く、黨員中に敵がない。立候補するにせよ、石城憲派候補中一番無難な人であるソレ

に黨員間には彼を推す意向が根強いから彼れの當選は、十中八九ウケアウことが出来る。前回のように黨魁とは云へ草野順平の如き者を糞骨折つて立て反對黨にとられるような事をするなら、自ら石城憲派の旗印のもとに堂々と戦つた方がいづら氣が利いてるか知れぬ。彼れは、井上や小野晋平の如く陽性の人でなく、シミなところから云へば政治家として割の悪い陰性の男である飽く迄、危劔をさけ、健實に一步／＼進む男だから、井上の如く華やかな飛躍的なところは藥にしたくともないかばかりに、井上のように、人に言質をもらへられることがない。脱線の危険が少ないのが或は彼れの身上とも云をうか。

### 大平陸四郎 (憲)

現縣議、大平陸四郎は、鷲清吉と共に郡南憲派の雄鎮であり、人材少なき憲派にありては、彼の再起は當然なる事である。黨人として彼は或は温厚すぎるかも知れぬ。兩黨對立の争闘舞臺に憲派闘士として不適任かも知れぬ。黨人として彼の過去は、軟弱であるとの不平も時折り耳にする然し彼の有する巨萬の富と牢固なる地盤はソレラの不平を消してあまりある權謀、術策のみに吸々として自己榮達の爲めには多年の黨友をも裏切らんとする、デモ策士、デモ闘士の多きなかに、彼の如き人間味の豊富な、寛容なる人物の存在は、有意義のものである。彼れは、石城憲派と云ふ「染物屋」に奉公しても、他の職人どちがひ、手を染めぬ男である。事物にコセツカス處に彼れの偉大があるのだ。品物を染めても、自己の清淨な手を決して染めぬ處に彼れの隠れたる聰明さがある。彼れの偉大なる體格が、全精神、全能力を表示するが如く、彼れは決して「弱き武人」でない、血河の戰場より身を避けるはごキヨダな小膽な男ではないタトへ、野崎、萩原の如き端的氣鋒の鋭さに欠けても、又元老漆畑のような、威壓的貫録なくとも石城憲派に、縣議級人物として、彼れの右に出づる者果して幾人かある、彼れはよく事物の表裏、始終を徹視する慧眼な男である。片々區々たる問題に囚はれ、狂奔するが如き小器でない、一酒屋より村長縣議とトントン調子に社會的位置を造りたる過去の足跡を巨細に檢點すれば、智畧、才腕

ある人物であることは容易に發見するであらう、彼れの鳴かず、飛ばざるは、環境の然らしむる處で、現在の彼れに、飛躍猛進をす、むるは無理である………。

### 井上茂作 (政)

非常に研究心の強い、外貌の怪威なるに似ず、内心アタタカミのある男だ、劇職に身を置き乍らも絶えず、近刊ものを獵讀し政治家して時代の思潮におくれざらんとする點は彼れを識るもの、敬服する處であらう。彼の尤一の武器は、彼れの有する財價でなく、反對黨の倒壊を劃す智策でなく、繁例、宏辭の言論の力である。彼れが僅か、一期の任期中に、縣下政友派第一戰の闘士として、重きを加えたのは、何んぞ云つても彼れの舌の働きである。憲派の闘將野崎滿藏から、反對黨の何人よりも仇敵視されるのは彼れの腹より泌み出る惡策奸計でなく、又大瀧問題を中心とする、數年間に亘る隔執でもなく、何事によらず、表面にデシヤバリたい彼の性格とコゼリ合もせず、眞向上段より斬り倒さんとするが如き彼の舌である。石城政界の鬼傑、中野浩忠の血縁だけあつて今や縣議として、オシモオサレもせぬ男である。彼れの短所とも云ふべき輕忽なる點を注意せば、或は民衆政治家として大成するかも知れぬ。前回の如く組員一致、利害を放れて、擁立するにせよ、平以外の町村にも井上崇拜家があるから強敵の出現なき限り、安全ならんも、顧りみて、現在平消防組の意向、果して既往と異なる處なきや。

### 御 挨 拶

春光和らぎ候折柄各位倍々御精勝之趣奉賀候降而小生儀「警城憲政新聞」經營中は公私共多人之御厚誼に預り奉銘謝候、其後改選刊行之處、轉地中絶任候段中に御許容相成度、昨月歸省致候に付、引續き刊行致す心組に候間不相變御後援被下度偏に奉冀望候 不一  
四月十五日 警城民政新聞主幹 金古政通

